

# 津地域新町地区 地震防災マップ

01-12

## 【震度の説明】

震度階級	人間	室内の状況	屋外の状況	木造建物
6強	立っていることが困難になる。	固定していない重い家具の多くが倒れる。ガラスが破損し、物が飛ぶ。ドアが開かないことがある。	多くの建物が、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補修されていないプロップの多くが倒れる。	耐震性の低い住宅では、耐震するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が倒壊するものがある。
6弱	立っていることが困難になる。	固定していない重い家具の多くが倒れる。ガラスが破損し、物が飛ぶ。ドアが開かないことがある。	かなりの建物が、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。	耐震性の低い住宅では、耐震するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が倒壊するものがある。
5強	非常な恐怖を感じる。多くの人が、身の安全を確保しようと行動に支障を感じる。	固定していない重い家具の多くが倒れる。ガラスが破損し、物が飛ぶ。ドアが開かないことがある。	かなりの建物が、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。	耐震性の低い住宅では、耐震するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が倒壊するものがある。
5弱	多くの人が、身の安全を確保しようと行動に支障を感じる。	固定していない重い家具の多くが倒れる。ガラスが破損し、物が飛ぶ。ドアが開かないことがある。	かなりの建物が、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。	耐震性の低い住宅では、耐震するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が倒壊するものがある。

※東海・東南海・南海地震で震度となるメッシュは地域内にはありません。気象庁震度階級連続観測表(平成8年2月)より抜粋

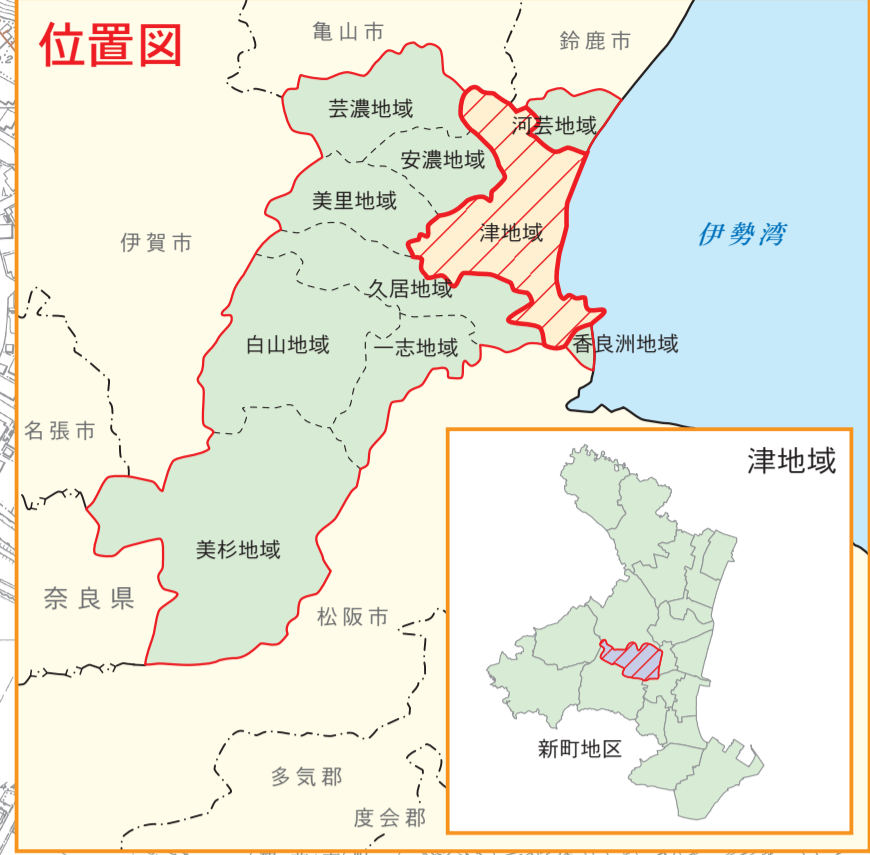
## 【液状化の説明】

液状化危険度ランク	予想される状況
極めて高い	液状化の危険度は極めて高い。メッシュ内で液状化が発生する面積は2割から3割程度と予想されます。砂や泥水が噴き出し、建物や橋が傾いたり、道路が陥没したり、波を打ったりする場所もある。
高い	液状化の危険度が高い。メッシュ内で液状化が発生する面積は5割程度と予想されます。砂や泥水が噴き出し、建物や橋が傾いたりする場所もある。切土地盤の造成地については、実際よりも危険度を高く評価している可能性があります。

造成地では一般的に、盛土地盤については液状化の可能性があると考えられます。これに対して切土地盤では液状化の可能性は低いと考えられます。この地図では、造成地全域を盛土地盤として液状化危険度を判定しているため、切土地盤の造成地については、実際よりも危険度を高く評価している可能性があります。

## 【凡例】

- 津波浸水深(0.5m以上)
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 緊急輸送道路
- 防災行政機関
- 救急告示医療機関
- 避難所
- 一時避難場所(地震災害)
- ライフライン関係機関



### ● 防災行政機関

名称	電話
津市役所	229-3104
津警察署	213-0110
中消防署中隊	226-2580
中消防署南分署	225-7431
中消防署南分署	234-3512
北消防署北隊	232-3092

### ● 救急告示医療機関

名称	電話
医療法人 百田クリニック	232-3001
岩崎診療所	232-2216
国田大学法人 三重大学医学部附属病院	232-1111
武内病院	226-1111
大門病院	226-5525
医療法人 永井病院	228-5181
遠山病院	227-6171
津生協病院	225-2848
若菜病院	227-0207
久居地域	
名	電話
総合市民センター	259-1211
柳原温泉病院	252-1111
白山地域	
名	電話
三重県立一志病院	262-0600

### ● 避難所一覧(地震災害・風水害)

名称	電話
神戸出張所	228-2964
神戸小学校	228-2965
西橋内中学校	227-5245
修成小学校	228-7131
新町小学校	228-5125

### ● 一時避難場所一覧(地震災害)

名称	電話
古河公園	228-0256
三重県立津高等学校グラウンド	228-0256
三重県立津工業高等学校グラウンド	226-1285
神戸公園	

### ● ライフライン関係機関

名称	電話
中部電力(株)津営業所	226-5559
東邦ガス(株)津営業所	228-7161
西日本電信電話(株)三重支店	116
津市水道局	237-5811

### 【津波の被害】

- 津市の海岸に津波が到達する時間(地震発生時から)
  - ・第一波(約20cm)・・・約50分後
  - ・最大波(約1.5m)・・・約2時間20分後(津波は一回きりでなく、数度にわたって襲ってきます。)
- 津波による主な被害
  - ・かさの上まで波がくると人は立っていかなくなります。
  - ・木造建物では、1m未満の高さでは部分的な被害程度ですが、1mを超えるとは壊滅的な被害となる場合があります。
  - ・鉄筋コンクリートビルでは、2~3mの高さまで持ちこたえられますが、4mを超えると破壊するビルが出てきます。

津波は、海洋や海底の地形(V字状の溝、岬の先端、湾内など)によっては局所的に大きくなる場合がありますので、注意が必要です。



この地図は、既存の図面としては最新の平成12年作成の津都市計画基本図を編集したものです。平成12年以降に建てられた建物については表示されておりませんので御了承ください。

